

「近代日本のルーツは横須賀製鉄所にあり！」

横須賀製鉄所から日本の近代化産業として日本各地へとその技術が伝わったと言われています

① 世界遺産 富岡製糸場(群馬県)

明治5年、日本で最初の官営製糸工場が群馬県富岡市に造られ、その設計は横須賀製鉄所に雇用されていたエドモン・バスティアンによるものでした。

建物の特徴である「木骨レンガ造り」や大断面の屋根を支える「トラス工法」は、副首長のティボディエ官舎をはじめとする横須賀製鉄所内にあった建物がモデルとなりました。

また、横須賀製鉄所建設の経験を活かし、わずか2カ月という短期間で工場全体の設計を行なったと言われています。そして工場の設備にも横須賀製鉄所で製作された蒸気機関が使用されていました。このように、世界遺産となった富岡製糸場には横須賀製鉄所のイズムが脈々と根付いているのです。



富岡製糸場 東置簡所正面



富岡製糸場 線系所内部

② 生野銀山(兵庫県朝来市)

明治政府が官営鉱山として経営していた生野銀山。採掘用機器などの鉱山機械や蒸気機関などが横須賀製鉄所で製作され使用されていました。鉱山経営の近代化のモデルとなった生野銀山の再生には横須賀製鉄所が大きく貢献したと言われています。

③ 官営愛知紡績所(愛知県岡崎市)

国内の綿糸生産を拡大させるため明治政府が模範工場として設けた官営愛知紡績所。

動力となるタービン水車を製作したのが横須賀製鉄所です。明治政府による模範工場の開業に、横須賀製鉄所が大きな役割を果たしたと言われています。

④ 灯台の建設 観音埼灯台(横須賀市)・野島埼灯台(千葉県)・品川灯台(東京都)

日本初の洋式灯台として知られる観音埼灯台は、横須賀製鉄所の首長ヴェルニーによって明治元年に建設されました。その建設に使用されたレンガは横須賀製鉄所で焼かれたもので64,600個が使われました。その後建設された野島埼灯台、品川灯台、城ヶ島灯台などにもその技術が活かされています。(加藤委員)



観音埼灯台(明治元年)

走水の湧水と横須賀造船所



走水水源地のレンガ造貯水池(明治35年) 国の有形文化財

明治4年、横須賀製鉄所は「横須賀造船所」と改称し、造船所の諸工場が建設され艦船の建造や修理など様々な機械の製作が始まり、水不足が深刻化していた。そこでヴェルニーは新しい水源を探すため、横須賀付近の地域を調査し、走水に豊富な湧水があることを突き止めた。

明治6年、ヴェルニーは走水から造船所まで土管を使い水を引くことを計画し、明治9年12月に工事を完成させた。全長7.0km、高低差を利用した自然流化式で水を流し、管を埋設するため、走水から馬堀春日神社横、田戸崎にトンネル工事も行ない、費用は当時の価格で12,151円88銭1厘であった。これが横須賀初の水道となった。

しかしこの水道はもっぱら造船所用で、軍港の街として発展し、人口も増加してきた横須賀では長い間水不足に悩まされていた。そこで横須賀市は軍から古い送水管の払下げを受け、覚栄寺の裏山に貯水池を造り、埋立地の大滝町、小川町、若松町等の地域へ給水をはじめた。ヴェルニーが水道を引いてから32年後の明治41年のことだった。さらにその後も市内の海軍施設の充実や人口増加により水不足は一段と深刻化を増し、水道設備が急務となった。当時横須賀市は財政難のため水道設置の費用が出せず、鎮守府司令長官に要望を出していた。大正2年、ようやく走水水道が全面的に市に貸与され、水道の不足分については半原系統の軍用水道の余水が分余されることになった。その後、横須賀市では大正10年8月に逸見配水池を完成させ、翌11年5月に市営水道が完成した。(樋口委員)



走水—横須賀製鉄所の水道管



市営覚栄寺裏山貯水池(明治41年)

猿島訪問記



猿島は東京湾に浮かぶ唯一の自然島として知られ、今では夏の海水浴や釣り、BBQなどのレジャーで訪れる人も多い。しかし明治時代から戦後にかけての長い期間、東京湾要塞の一部として砲台が置かれ、立ち入りが制限されていたこともあって豊かな自然と歴史遺産が残されている。デッキを抜けるといよいよ散策路の始まり。すぐ横に古びたコンクリートの煙突を備えた建物がある。明治時代から島の電力を供給している発電所だ。所々モルタルがはがれて赤茶色のレンガが覗いている。さらに進むと緑のクコで覆われた石積みの切り通しに出る。所々にレンガ造りの構造物が顔を出しているが、これは明治時代の砲台で使われた兵舎や弾薬庫の跡らしい。案内板によると「フランス積」と呼ばれるレンガの積み方の建造物は、猿島を含めて全国に4カ所しか確認されていない貴重な物だと言うことだ。猿島には見晴らしの良い開けた広場がいくつかあるが、無機質な円形のコンクリートをいくつか目にするだろう。これは太平洋戦争中に使われた高射砲の跡だという。数十段の階段を登って丘の上に出るとコンクリート製の展望台に出る。建物自体は老朽化で入れないが、子供時代に見た特撮の秘密基地そのものだ。展望台より横須賀方向を見下ろすと、近代的なタワーマンションが西日を受けて輝いていた。(栗田委員)

「横須賀製鉄所で製造されたレンガ」

長崎製鉄所を建設する際に焼かれたものに次ぎ、日本で2番目に古いとされる横須賀製鉄所のレンガは、慶応2年(1866年)に製造がはじまり、明治4年(1871年)頃には毎月2万7千個が製造されていました。そしてそのレンガには「ヨコスカ製鉄所」という刻印が押されており、製造された総数は百万個以上と言われている。またその技術が日本各地のレンガ製造に大きな影響を残したと言われています。

首長ヴェルニーによって建設された灯台にも大量のレンガが使用されましたが、工場や灯台の完成後は横須賀製鉄所のレンガ使用は激減していきました。しかしその後、富岡製糸場や生野銀山など日本各地でレンガ建築による建物が数多く建てられ、レンガは建築材料として明治の日本に定着していきました。(加藤委員)



横須賀製鉄所で製造されたレンガ



横須賀製鉄所の刻印

information

第21回都市景観フォーラムを開催します!

■開催日時:平成28年2月7日(日) 13:00~17:00(12:30開場)

■開催場所:ヴェルクよこすか 6階ホール(横須賀市日の出町1-5) <入場無料>

■プログラム:メインテーマ 『伝えよう未来へ〜近代遺産のまち〜』

①講演(1)「横須賀製鉄所と富岡製糸場との関わり」

今井 幹夫さん/富岡製糸場名誉顧問、富岡製糸場総合研究センター所長

②講演(2)「海軍とまちづくり」

山本 詔一さん/郷土史家、横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長

③パネルディスカッション

コーディネーター:井田 邦明 さん/舞台美術家、ミラノ・アルセナーレ劇場・演劇学校 主宰  
パネリスト:久保木 実 さん/地域史研究者、郷土史家、三浦半島の文化を考える会代表  
越川 昌光 さん/ドブ板通り商店街振興組合理事長  
山本 詔一さん/郷土史家、横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長

■平成27年度よこすか都市景観協議会会員

【順不同】

- 正会員 《10団体》(一社)神奈川県建築士会横須賀支部/(一社)神奈川県建築士事務所協会横須賀支部/ミーズ設計連合協同組合/(公社)神奈川県地建物取引業協会横須賀三浦支部/(公社)全日本不動産協会横須賀支部/横須賀建設業関連団体協議会【(一社)横須賀建設業協会/横須賀建工同志会協同組合/(一社)横須賀三浦建設協会/横須賀電気工事協同組合/横須賀管工事協同組合/横須賀緑化造園協同組合/横須賀三浦塗装工業協同組合/横須賀内装事業協同組合/刷新会】/横須賀商工会議所/(公社)横須賀青年会議所/東芝ライテック(株)/横須賀市
- オブザーバー会員 《3団体》神奈川県横須賀土木事務所/東京ガス(株)横浜支店/東京電力(株)藤沢支社



よこすか都市景観協議会 会長 増田 務

よこすか都市景観協議会会員募集中です!

連絡先: 横須賀市 都市部 市街地整備課 電話046-822-8377

よこすか都市景観協議会



発行:よこすか景観ニュース・HP編集委員会

委員長:高原 健一/加藤 雄治、樋口 和也、栗田 薫、木村 和貴、竹永 久志、宇野澤 典紀子